

【令和5年度授業改善推進プラン 算数】

板橋区立高島第三小学校

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単純な計算の仕方は理解しており、素早く解くことができる。 ・学年に関係なく、九九の間違い（7の段、8の段）が多い。 ・学習した直後はできていたことが、時間がたつと忘れてしまう。または、あいまいな記憶のため、他の解き方と混ざってしまう。（正しくない公式で解いてしまう等） ・問題文が長いと、読まない、または、問われていることの意味が分からなくなってしまう。 ・テスト等では、記述形式で問題が出されると間違いが多く、無回答も増える傾向が見られる。また、思考力を問われる問題に苦手意識がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で取り組むことが困難なため、個別対応を必要とする児童がいる。 ・苦手意識のある児童ほど家庭学習に取り組まないことが多いので、学習した内容が定着しにくい。 ・問題文を読む力や読む習慣をつけるには、算数の時間だけでは対応しきれない。 ・習熟度指導の形態はできているものの、学力に課題のある児童のクラスでは、教員数が足りず指導者の負担が大きくなっている。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器と机間指導を併用し、児童のつまづきを探る。 ・九九を忘れていた児童がいたら、九九表（算数少人数室等に常時、置いておく。）を使って取り組ませる。また、面積の公式や単位表など、視覚的に理解できるようなヒントを活用する。 ・学習の振り返りを継続して行い、授業内容の定着や思考力を養う。また、学習内容の定着のため、学期末はその学期の学習内容の復習を授業中に行う。 ・問題文の必要な情報に線を引かせたり、言葉の意味を確認したりすることで、問題文のイメージをつかめるようにする。 ・長い文章が抵抗なく読めるよう、読む習慣をつけさせる。 ・前の学年で学習した問題を解く機会を増やしていく。 ・教科書の説明の数字を入れ替えて考え方を書く練習に取り組ませる。 ・既習事項に応じた問題提示の工夫を行う。 ・学力向上支援員との連携を図ったり、クラスの人数を調整したりするなど、個別対応を必要とする児童が学びやすい環境を整える。 ・図形、面積等の内容は、児童の説明場面においてICT機器を活用した視覚的な支援を行い理解を深める。